

研究・調査報告書

報告書番号	担当
14	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Mortality risk up to 25 years after initiation of treatment among 420 Swedish women with alcohol addiction 420名のスウェーデンアルコール中毒女性の初期治療後25年間追跡した死亡リスクについて	
執筆者	
Haver B, Gjestad R, Lindberg S, Franck J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2009 Mar;104(3):413-9.	
キーワード	
飲酒、女性、追跡研究、死亡率、治療	
要旨	
<p>目的： アルコール中毒で治療を受けた女性は、一般集団に比べて3～5倍死亡率が高い。しかし、これらの報告は先行研究では飲酒歴の多い社会的に不利な立場の女性が過剰に集計されているため水増しされている可能性がある。この研究の目的は対照である一般集団とマッチさせて比較することで、初期治療時に社会機能が比較的保たれている患者の長期的な死亡率を調査することである。</p> <p>方法： 追跡期間（0～25年）の死亡登録から得たデータを用いて、死因と死亡率を症例群とマッチさせた一般集団の対照群と比較した。「アルコール中毒の女性のための初期治療」と題した女性専用の特別な治療プログラムをスウェーデンストックホルムカロリンスカ病院にて行った。プログラムで初期治療を受けた対象者（420名）とマッチさせた一般集団（2,037名）の対照群と比較した。</p> <p>結果： 全追跡期間を通じて症例群はマッチさせた対照群に比べて有意に死亡率が高く、相対リスクは2.4であった。さらに、若年女性ではマッチさせた対照群に比較して死亡率が4倍高かった。死亡数が多かったのは最初の5年であり、不確かな自殺や事故により飲酒に関連した死亡数は過剰集計されていた。</p> <p>結論： アルコール中毒による初回治療を受けた女性は若い集団を除いて臨床からの先行研究より実質的には死亡率が低い。本研究では社会人口学的状況の交絡因子を調整している。本研究は外来または入院の特別治療施設において大酒女性群に広く応用できると考えられる。</p>	